

2022年度前期講座 5月7日(土)～9月24日(土)

平日 PM6:45～9:00

土曜 PM1:00～3:30

●2022年度前期開講講座

5月7日(土) ウクライナ情勢と朝鮮

講師＝高演義 (朝鮮大学校客員教授)

●5月14日(土) 沖縄復帰50年の現実 (仮題)

講師＝明真南斗 (『琉球新報』記者)

●5月28日(土) 韓国サンケン労組の闘いと尾澤さんの  
裁判闘争勝利をめざして

——KBS放映『日本へ走れ 連帯の道を!』をみて考える

講師＝尾澤孝司 (韓国サンケン労組を支援する会事務局次長)

●6月4日(土) 運動論としての「転向」

——『「文学者に就て」について』と『冬を越す蕾』

報告＝HOWS受講生

●6月8日(水) 「フリーランス保護法」の動きをどう見るか

講師＝杉村和美 (出版ネット執行委員・編集者)

●6月11日(土) 改憲勢力優勢の状況下、  
どう反戦平和の闘いに取り組むか

講師＝飯島滋明 (名古屋学院大学教授)

●6月14日(火) 西側帝国主義による国際法秩序の解体

——ウクライナ情勢を前に想起する ユーゴスラヴィア

講師＝富山栄子 (国際交流平和フォーラム)



●最寄りの交通機関  
 ・都営大江戸線「本郷三丁目」駅⑤番出口 徒歩4分。  
 ・東京メトロ丸の内線「本郷三丁目」駅②番出口 徒歩5分。

# HOWSで学ぼう

## 抵抗と変革を志すひとびとへ



2022年3月5日に開催した国際婦人デー東京集会

●ウクライナ戦争を終結するために何をなすべきか？

2022年2月24日にロシア軍がウクライナに侵攻しました。この戦争は第三次世界大戦へと発展する危険性もあります。戦争の終結は外交努力によつてのみ可能です。ロシアを一方向的に「絶対悪」に仕立てあげ、人々を核兵器増強を含む際限のない軍拡競争による人類共滅の軍事衝突へと駆り立てることによつてでは、この危機を回避できないことを確認したいと思います。

わたしたちは、いま一度冷静になって、ウクライナ戦争の歴史的背景を知る必要があります。ユーゴスラヴィアから、アフガニスタン、イラク、リビア、シリアへの侵略と続く、アメリカとNATOによる、国連憲章や国際法を無視した戦争政策を見落としてはいけないでしょう。さらに、2014年の憲法違反のクーデター以来、ウクライナはすでに半戦争状態にあったとの指摘もあります。CIAやその下請け機関であるNED (全米民主主義基金) によつて他国の合法政府を転覆させる「施策」にも原因が求められます。また、アメリカの新植民地主義的介入を後ろ盾とした、NATOの東方拡大 (東欧における加盟国拡大) に問題の根源があるとの指摘もあります。

翻つて日本では、メディアが「ロシア＝中国、ウクライナ＝台湾・香港」という一面的な「類推」に基づいて、いたずらに日本周辺の戦争危機を煽る報道を繰り返しています。安倍晋三や橋下徹は、壊憲を飛び越えて持論の核武装 (核の共有化) 論を振りまっています。他方、岸田政権は、ロシアへの厳しい経済制裁とウクライナへの膨大な額の経済援助を進めています。「人道支援」と称して自衛官の東欧への派遣や、武器輸出三原則を無視した防弾チョッキやドローンなどの防衛装備品の供与も検討しています。

そのような状況下で、わたしたち労働者人民が取り組まなけ

ればならないことは自国政府による戦争政策をやめさせることです。いまほど、憲法第9条に立脚した日本の反戦平和運動の真価が問われるときはないです。

●わたしたちの未来を創るための行動指針を獲得しよう！

今期HOWSでは、ウクライナ情勢に象徴される西側帝国主義諸国による国際法無視の振る舞いを検証する講座や、反中国・反朝鮮キャンペーンに抗して日中国交回復50年と日朝平壤宣言20年の節目の年を迎えての日中・日朝関係の未来を探る講座、また、沖縄返還から50年のなかで日本人民に問われている課題、そして日本の改憲勢力の圧倒的優勢の状況下での闘いのあり方を探る講座などを開催します。戦争の危機において、わたしたちの未来をつくるための行動指針を学びとりながら、労働現場や政治参加、そして文化・芸術活動の場面で実践に活かしていきたいと考えます。

●HOWSとは？

2000年に開講したHOWSは、さまざまなテーマをつづじて、わたしたちがいかに変革の担い手になりえるのかを追求してきました。講座に参加する全員で、この社会を根底から変革する思想と文化の創造、その方法をも探求する場の創造をめざしています。「講師＝教える人」、「受講生＝教えられる人」ではなく、ともに討論してゆく場です。1回の講座で問題がすべて解決でき、解答がえられるわけではありません。また毎回の講座を通じて、新たな疑問や課題が見つかることもあります。問題を多角的、継続的に考えることができるのも、HOWS講座の魅力です。あなたもHOWS講座に参加して、この社会を複合的に観る目を培いましょう！